



日本有機食品認証連絡協議会・岩泉好和理事

岩泉さんが、また「有機ゲノム」一蹴

「有機ゲノムは認めない」決着

12月5日の「有機ゲノム」検討会で、岩泉さんがまた大活躍。

12月10日に「有機ゲノムは認めない」と決定されました。

これで日本の有機食品は、信頼性が保たれました。

「有機ゲノム」を認めれば憲法違反

「有機ゲノムを認めると憲法違反になる」と言う岩泉好和さんの30分にわたる演説から、12月5日の農林水産省「有機ゲノム」検討会は始まりました。

9月30日の検討会で、憲法違反と主張して、有機ゲノムを一蹴した岩泉さんは20数ページに及ぶ資料を提出していました。今回会議場に着くと、その資料が全員に配られていて、説明するように求められました。

内容は前回と同じですが、今度は資料原本を見せながらの説明です。

日本子孫基金がIACFOという国際組織を結成して、国際食品規格委員会の有機部会にオブザーバーとして参加し、スタッフだった熊澤夏子、高橋信子、遠藤倫子らが異例の活躍で世界をリードして作成したのが『コーデックスの有機規格』です。

このとき、要求項目を熊澤に出していたのが、安全基金理事でもある岩泉さん。だから5日の資料には、当時の本誌の内容が反映されていました。

「有機ゲノムを認めることは、日本が参加して作成した国連の『コーデックス規格』に反することになり、日本が締結した条約や国際法規を誠実に遵守すると定めた憲法第98条2項に違反する」と言うと、誰も反論できません。

これで「有機ゲノムは認めない」が、12月10日の日本農林規格調査会に回りました。

岩泉さんが傍聴に行くと、「追跡できない」という意見に、「怪しいものは使わなければいい」と農水省が反論して結着。1月31日に改正が正式決定されることになりました。

有機食品の砦を守った

有機食品にゲノム編集を認めている国はありません。

しかし、トランプ大統領は大統領令を発し、ゲノム編集を含む遺伝子操作食品を推進するため、規制を見直す準備をしています。

安倍政権も、6月15日に「統合イノベーション戦略」の中で、ゲノム編集技術の推進を決めました。

安倍政権の意向を受けてゲノム食品を推進する農水省。安全審査・表示義務を放棄した厚生労働省と消費者庁。このままでは、ゲノム編集食品は増え続け、トレーサビリティがブラックボックス化します。

こうした中で、今まで有機食品を支えてきた消費者、生産者の期待に応え、有機だけはゲノム編集を認めないと農水省に決定させたことは画期的なことです。

これで有機食品の信頼性が保たれます。

大活躍した岩泉さんにはもちろんですが、「有機」ASにおけるゲノム編集技術の取扱いの検討会で反対の声を上げてくれた委員の方たちにも感謝を申し上げます。

これからも、有機だけはゲノム編集食品を認めないと、多くの国民が声を上げ、有機の砦を守り続けていきましょう。（成田、小若）